



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

あこがれ、魅せられて変わる歌声

東京を拠点にソプラノ歌手として活躍されている萩野久美子さんをお招きし、6年生の歌唱指導をお願いした。遠方からわざわざ草津へ、しかも指導時間はわずか45分の一コマ。にもかかわらず、子どもたちに出会えるのが楽しみだと快諾して下さいました。

歌を歌うことを仕事にしているプロだから、たくさん歌うのだろうなあ、きびしかったらどうしよう…。心配そうな表情の子どもたちは、緊張した面持ちで静かに並んで待っていた。はりつめた雰囲気の中で、はじめましてのあいさつが交わされ、彼女が語り始めたのは、今日に至るまでの自身の歩みだった。

45分という限られた時間の半分以上が、どういういきさつで今ここにいるのかという話で過ぎていった。自分は歌を歌うことを仕事にしている。プロだからすごいと思う人がいるだろうけど、小さい頃は軽い気持ちで何も考えず、毎日を過ごしていたの…。明るくはずんだ声に、子どもたちはどんどん引き込まれ、聴き入った。彼女が語る、小さい頃の音楽に対する思いは、今の彼女からは想像できない、真逆のそれだった。大人たちから、ちゃんとした夢を持ちなさいと言われても、はっきりこれというものがなかったらしい。それは、音楽を仕事にしている母親への反発と、末っ子特有の恥ずかしさが手伝ったからで、気持ちがすなおに出せなかったかららしい。さみしがりやで甘えん坊で、いつもまわりの人に合わせ、流されてしまうといった、普通なら隠したくなるはずのようなことも包み隠さず正直に語る姿に、子どもたちはますます親しみを覚えたようだった。

その後、彼女は高校受験を控え、決意する。「歌が好きだから、東京に行って声楽家になろう！」と。今にしてみれば、それはうわついた軽い気持ちで決めたものだったようだ。傍目には、とんとん拍子に夢を実現する実力ある人というように見られた。が、やがて、東京の音楽専門の大学に進み、歌が好きだからだけでは歩めない壁に突き当たる。「歌が好き？だからどうなの、どうするの？」という問いである。やがて大学を退学して故郷である草津に帰ってきた。そして一人になり、誰にも会えなくなって、じっと自分自身に向き合うことになる。まっくらなトンネルの中に、自分一人が置いてきぼりにされたようで、なんとか出口を見つけようともがき、探りあてたのは、やはり歌だった。「やっぱり、自分には歌。これからはちゃんと歌に向き合い、歌を歌おう。」そのように覚悟をもって出会い直すことができたという。こうして再び東京の芸術大学で学び始める。以前の自分は、先生が指導して下さいる一言ひとことを、ハイハイと受け流すようにしてい

た。しかし、このことがあってからは、もう後戻りできないと思えるようになり、大切なことは、たとえ面倒なことでもしっかり納得しながら身につけていこうと、取り組むようになったという。そして、今ではひとつの夢——大きなホールで、あなたの歌を聴かせてほしいと言ってくれるたくさんの人の前で歌を歌う、そんな夢が抱けるようになったそうだ。

彼女は続けて語った。自分のセンスを大切にしてほしい。見栄えだとか、誰かの意見だとかに左右されず、余分なものをそっくりそぎ落としきった後に残る「これが好き」ということ、これが夢につながる大切なこと。ちっぽけかもしれないけれど、誰にも邪魔されないほんとうの気持ち、これを失わないこと。ずっと追い求めていくこと。みんなも、今ははっきりと夢が描けないだろうけど、自分にはやっぱりこれしかないというものをみつけて歩んでほしい…。

彼女のことばには力があつた。

彼女へのあこがれは、前半の話で子どもたちにしっかりと根付いた。その後の発声練習で、その力が発揮された。子どもたちは発声練習が楽しくて騒ぎ出す。教員なら、「静かにしなさい、ちゃんとしなさいと叱ってしまうところを、「ホントおもしろいなあ、かわいいですね。わたしもこんなもんでした。」と余裕で受けとめ、「そうそう」「いい感じ」「キミ、言うたよね」「わたし、聞いたし」などの合いの手をどんどん入れながら、歌う姿勢、息の整え方と口のかたちを指導した。わずか数分間の練習だった。そして「さあ、もう一度、みんなの歌を聞かしてください。」すると、歌声はまるっきりちがうものになっていたのである。たった数分間の練習で、子どもたちは伸びやかに自分を出しながら、奥行きのあるやわらかな歌声を響かせたのだ。

10月の音楽発表会。その直前に、彼女は子どもたちと再会する約束をした。楽しみだ。

校長 大林 道範

●お知らせ 小学校グラウンドの防球ネット設置工事

期間 平成30年8月10日(金)～19日(日)

この期間は、大型工事車両が出入りします。小学校敷地内への立ち入りはご遠慮下さい。

●お礼とお願い

学区内の「子ども110番の家」をお引き受けしてくださっている方々、また日頃より子どもたちの登下校はもちろん、下校後の地域生活でも直接間接に子どもたちの見守り、お世話をしてくださっている皆様、今学期も大きな事件、事故もなく終えることができました。とりわけ、今学期は地震や大雨など、非常変災に関わる対応が求められました。大事に至ることなく安心して生活できておりますこと、ありがたく感謝いたします。夏休み、そして2学期以降もどうぞよろしくおねがいします。